



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2021.12.10 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

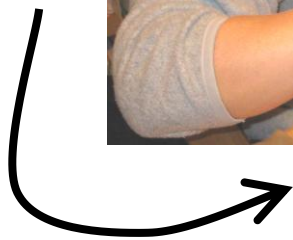
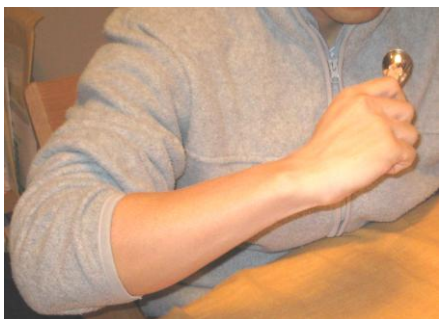
おはしを上手に使う前に…

おはしがうまく扱えないという悩み。「早く、早く！」とせかせる前に注目したいポイントがあります。

手首や指先の機能

が十分育っているか、ということです。「文字指導」のところでも触れましたが、「発達段階に合わせた」順序が大切です。写真をご覧ください。

「ひじ」
を基点に



おはしを使うには、指先の細かな動きとともに、手首の返しが必要です。しかし指先の動きはもちろん、手首を返す動きも難しいものです。

スプーンを上手持ちで握り「ひじ」を基点とした

動きが、まず大切。

それと同時に、手首や指先の運動機能を促す「遊び」をたっぷりします。ひもを通したり、パズルのような遊びで、指先をうごかしてもらいます。



子どもの発達や興味に合わせて、様々なおもちゃを用意します。こうした環境づくり、場づ

くりが大事で、知らないうちに子どもは楽しみながら、自ら進んで、必要な技能を修得していきます。



手首を返す！

その次の段階で、スプーンを、おはしを持つように持ち替えて（下手持ち）、**手首の返し**を使って食べられるように指導します。

こうしたプロセスを経たのち、さらに合わせて

手先を動かす遊びをたっぷり

行いつつ、スプーンをおはしに持ち替えます。こうした流れでの指導をすれば、自然におはしが使えるようになります。



子どもは大人のまねをしたいものです。おはしを使いたくても、手や指がいうことを利かない。お母さんもそれを望んでいるけど、できない。こうした状況で強要すると、子どもは食事そのものが嫌になってしまうでしょう。やはりここでも、子ども自身の

「楽しい！うれしい！やってみたい！」

は重要なのです。

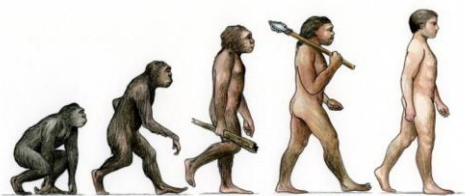
「ではいつごろまでにおはしを…」という問題ですが、これは個人差がありますのであまり神経質にならない方がいいと思います。

手指の骨が完成するのが**4歳前後**といわれています。骨が完成することで指の動きの幅が広がり、スムーズに動かす・あやつれるようになっていきます。

すべての指をあやつれるようになってきた頃から、おはしの練習を始めるとよいでしょう。

かつて保育園では、2歳でおはしを持てるようにと指導したそうです。子どもは、食べたいのにスムーズに食べられないのでイライラしたり、にぎり箸になったり、おはしを振り回したりするので大変だったといえます。

原則はつねに一緒です。子どもに必要な技能を身につけさせるには、子どもが熱中する環境づくり。たっぷりと遊んでもらう。その結果、副産物として教育効果が得られる、というわけです。教育が先にあるわけではありません。



手 ▶ ことば ▶ ルール

機能遊び

象徴遊び

構造遊び

ルール遊び

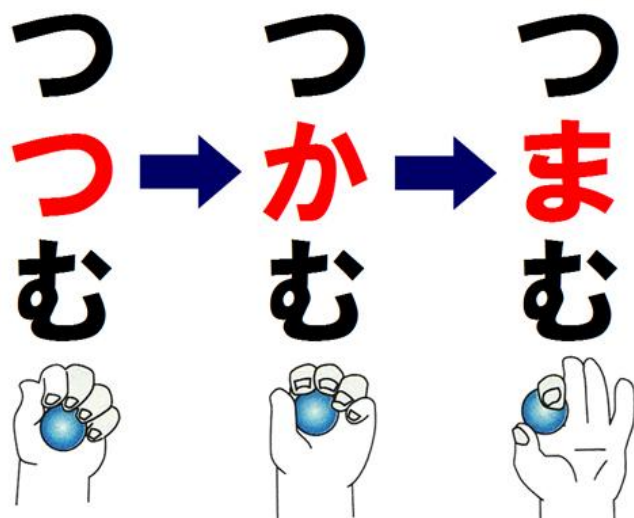
少しおおげさな図ですが、サルからヒトへ進化する過程は、

手 → ことば → ルール

という流れをなぞっています。

そして興味深いことに、幼児教育における遊びの変化もそれに対応しているのです。

四足歩行をしていたわれわれの先祖は、やがて二足歩行になります。手の解放です。



その手も「つつむ」→「つかむ」→「つまむ」と指先の動きが緻密になります。親指を他の指と向き合わせる「対向」ができるのは、ヒト以外ではチンパンジーだけだといえます。こうして道具が扱えるようになります。

さらに身振り手振りを豊かにしてコミュニケーションが始まります。それはやがて「ことば」へとつながったのです。

私たち人類は、そのことばを使い、さまざまな「ルール」を作り上げました。秩序が築かれ、文明が発展しました。

同様の流れが、幼児教育の遊びの中で展開されます。機能遊び（手遊びなど）→象徴遊び（ごっこ遊びなど）→構造遊び（積み木など）→ルール遊び（カードゲームなど）という具合です。

これが夏見台幼稚園・保育園が大切にしている遊びへのこだわりです。

（終）